



ご存じですか？

ポリファーマシー

多剤服薬による有害事象

薬をたくさん服用することで、思わぬ悪影響が身体に及ぶ場合があります。このような「ポリファーマシー」を防ぐため、多剤服薬への対策が進んでいます。

防ぎたい「多剤服薬による悪循環」



私たちの寿命は延び、必要に応じて服薬治療で病気をコントロールしながら長生きする時代となっています。事実、年齢を重ねるにつれて様々な治療が必要になり、症状に応じた複数の薬を処方される人は少なくありません。

ところが、複数の医療機関にかかっているなどの場合、どのような症状でどれだけの薬を処方されているのか、医師や薬剤師がすべて把握しているとは限りません。結果的に、薬の効き目をなくしてしまったり、他の症状に好ましくない影響を及ぼすなど、飲み合わせに問題がある薬を服用してしまうことがあります。また、たくさん薬を常用していると、食欲不振やふらつきを招くなど、身体に悪影響を招くおそれもあります。

監修 東京大学大学院医学系研究科
地域医療システム学講座
教授 今井博久

多剤服薬対策が進んでいます

薬を何剤も常用する人々が増える中、多剤服薬によるリスクを防ぐため、次の取組みが奨励されています。

- 6剤以上を常用している人への処方内容を見直す
- 処方内容について医療機関と保険薬局が連携する

薬のことで疑問やお悩みなどがあれば、保険薬局の薬剤師に相談してみましょう。

毎日たくさんの薬を飲むのは大変で…



どうすればできる？

薬との上手な付き合い方

たくさんの薬を常用することには注意も必要なので、次の2つをぜひ実践してみてください。

お薬手帳を活用する

お薬手帳は必ず持参し、処方された薬の履歴がわかるようにしておきます。

お薬手帳がないと医療費が高くなります。忘れずにお持ちくださいね。



【薬局で支払う薬剤服用歴管理指導料】

- ・お薬手帳がない→530円
- ・お薬手帳がある→410円
- (自己負担3割の場合:160円)
- (自己負担3割の場合:120円)

※薬局によっては、この制度が適用されないこともあります。

かかりつけ薬局をもつ

複数の医療機関にかかっていたとしても、症状や処方内容を薬剤師が把握できます。

新しいお薬が出ていますね。お身体に変わったことがありましたか？



たくさんの薬が処方されて、飲みきれなかったり、飲み忘れてたり。それだけでなく、身体に不調が生じてしまい、その症状を抑えるために、また薬が処方される悪循環。

このようなことでさらに健康を損なってしまうなんて、困りますよね。薬との上手なお付き合いを、ぜひ始めてみてください。



事例紹介

たくさんの薬を服用していたAさんとBさん。2人ともめまいや食欲不振などの不調があり、薬剤師に相談してみました。

Aさんの場合



見直し後

内科	整形外科
・高血圧の薬 35種類	・痛み止め 12種類
・胃薬 13種類	・湿布 1種類
・痛み止めなど 13種類	

薬剤師が病院に連絡したところ、整形外科で処方されている痛み止めが高血圧の薬の効き目を弱めている可能性があるとわかりました。そのため、常用するのではなく、痛みがひどい時だけ服用することにするなど薬の数量を見直しました。その結果、少ない薬で血圧への効き目が出ました。また、めまいやふらつきなどの不調がなくなり、たくさんの薬を飲む負担も減りました。

Bさんの場合



見直し後

内科	
・高コレステロールの薬 13種類	・胃薬 12種類
・高血圧の薬 2種類	・痛み止めなど 14種類
・肝臓・腎臓の薬 12種類	

13種の薬を常用していたBさんは、体調がすぐれず薬が飲みきれないことを薬剤師に相談しました。Bさんの健康診断のデータを見た薬剤師が、肝臓と腎臓の機能が低下していることに気づきました。薬の代謝が身体に負担をかけているかもしれない、医師と相談して見直したところ、体調も食欲も回復しました。

さらに！

AさんとBさんはジェネリック医薬品に切り替えられる薬があるとわかり、薬代がとても安くなりました。身体にはもちろん、医療費の面からも、とても良い見直しができたこととなります。

薬の数量見直しとジェネリック医薬品への切り替えで

Aさん

薬代が 月に 5,200円 も安価に
年間で 62,400円

Bさん

薬代が 月に 10,500円 も安価に
年間で 126,000円

※自己負担3割の場合。自己負担割合に応じて支払額は異なります。